

「HSK 季刊わたぼうし」 第53号

発行者:わたぼうし連絡会

発行日:2001年(平成13年) 3月27日 '01春号

第53号のテーマ 「みんなの広場」

千鳥足 車がよける夜の国道

比呂雪

この機関紙は障害のある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

## テーマ 「みんなの広場」

お断り：今回は「私の介護体験Ⅲ」の予定でしたが、「介護体験」以外の投稿が多くありましたので、「みんなの広場」特集号とし、平成15年度よりスタートする「障害者施策の概要」を掲載します。

## アメリカ西海岸旅行から見た交通・移動事情

### 「自立生活センターハートいしかわ」代表理事



2000年に車いす使用者3名と自力歩行者2名、その他家族や会員ボランティア等を含めた12名でアメリカ西海岸のサンフランシスコ、バークレー、サンタモニカ、ロサンゼルスへ観光視察旅行をしてきました。

旅行は、日本から脱出するまでの移動が大変でJR列車ゴールデンゲートブリッジにて もバリアがありました。自宅から金沢駅までの移動手段が少なく、自分たちの会のリフト付バンの移動サービス（ドア・ツー・ドアサービス）を利用して金沢駅に着きました。スーパー雷鳥サンダーバードの列車で金沢駅から関西方面に向かい、雷鳥でもステップが高く乗りづらかったが後にできたサンダーバードの方がさらにステップが高く乗りづらい列車でした。

関西空港からサンフランシスコ空港に着いていきなりハプニング発生です。空港にリフト付バスが迎えにきていましたが、そのバスのリフトの収納がうまくいかなく、やっとのことで収納し昼食のホテルに移動しました。運転手は、ホテルで昼食をとっている時間に代わりのバスと取り替えてきていました。それだけバスがたくさんあるということです。金沢では観光用のリフト付バスはありません。日本全体でもリフト付観光バスは数えるほどの台数しかないようです。

アメリカは車社会であり、たくさんの車が走っていて高速道路はすべて無料でした。車社会なので車を使用するための環境が整っていました。例えば、レストランやテーマパークで車いす使用者の駐車場が日本とは比べものにならないくらい多く設けてあり、またコンビニでも車いす使用者用の駐車場があったので大変おどろきました。



リフト付きバス（ハプニング車）



路肩駐車風景（許可車）

車の駐車は、ハンディキャップのある人で許可書があれば色などで指定された場所での路肩駐車ができます。日本では道路の幅が狭いため路肩駐車は難しいところがあります。

アメリカの交通機関は、路線バスや鉄道など以外にパラトランジット（ドア・ツー・ドア）のリフトバンなどがあり、固定路線システムを補完する併設交通機関として運行しています。

路線バスは、バスのほとんどにリフトが付いています。バス一台当たりの車いすは2台までとなっており、固定装置も簡素化されていて停車してから発車まで約1分程度で済むのです。車内は、一般の座席が車いす用のスペースのため2カ所が折り畳み式になっていて、車いすで通路をふさいでしまう心配はありません。ただバスの時刻表がないという問題点があります。



路線バス

金沢のノンステップバスは、アメリカと同じく2台の車いすを固定することができ、操作に慣れている運転手で停車してから発車まで、約5～6分程度かかってしまい油圧スロープや固定装置を考慮する必要があると思います。

サンフランシスコ湾周辺を走っている高速鉄道（バート）は、すべての駅に地上からホームまでエレベーターが設置してあり、車いすの人が切符を買うことのできる販売機がありました。このバートは、列車とホームとの間に段差やすきまが殆どなく安心して利用でき、車いすに限らずベビーカーや自転車も自由に持ち込みができるものでした。

サンフランシスコからバークレーまでバートで移動し、そこから自立生活センターのあるところまで路線バスに乗り、車いすが合計で3台であったため2便を使って移動しました。



高速鉄道（バート）への乗車



ユニバーサルスタジオ・車いす専用駐車場

ロサンゼルスでの移動は、すべてリフト付バスで行いました。ユニバーサルスタジオのテーマパークにも非常にたくさんの車いす用駐車場があり、映画のセットを見て回る ترامも車いすが固定できるようになっていて、旅行した人と同じ行動ができて感動を共感することができ大変良かったです。

また、高低差のある地形のアトラクション施設に移動するためにスロープ付バン車が運行しており、車いす2台が簡単に固定ができました。スタジオ施設内はもちろんのこと各店舗にも段差がなく、また段差があるところは必ずスロープが設けてありました。



映画のセットを見て回るトラム

今回いくつかの都市を訪れましたが、交通面はもちろん、小さな店舗にも段差がなく入ることができ、また車いすで使用できるトイレがどこにでも設けてあっ

たので、安心して移動ができました。日本では、交通移動の問題をはじめ、あらかじめ店舗などの段差やトイレ情報を得て行動計画をねらなければならないという不自由な点があります。つまり、それだけ環境が整っていないということがいえるのです。

アメリカは1990年にA D A（障害を持つアメリカ人法）が施行され、ホテルやレストラン、映画館などの不特定多数の人が利用する施設は利用しやすくなりましたが、施設がすべて完璧になっているかというところでもないです。例えば、車いすで利用できるトイレは、入ることができるが、ぎりぎり入るところや手すりがないところもあり、まだまだ多くの課題もあるようです。

しかし、これまで述べたようにアメリカの交通機関の利用を可能にし、街の構造を変え、社会参加の環境を整えたことには障害を持っている人たちの積極的な行動があったことを忘れてはいけないと思います。

交通機関や建物、街の構造の問題などを心配することなく、自由に出掛けることができるアメリカ社会から学ぶことが多いと思います。

## 「バリアフリーふれあい体験作文」・一般の部優秀賞受賞作品

この作品は、編集者が加賀市の障害者支援施設「南陽園」のホームページより見つけ、南陽園、利用者の増山様より転載許可をいただいております。



谷本石川県知事と増山さん

### 無関心さは差別とは違う

加賀市・増山 進

現在、私は加賀市にある授産施設で仕事をしながら、生活を共にしています。毎日、辛い日もありますが、仕事と割り切って頑張っています。そんな私にさせたのは、今まで旅先で知り合った人たちの御陰だと思っています。

時折、私はまとまった休みに入ると、よく一人で旅行に出掛けたりすることがあります。旅行といっても、殆ど文通やEメールで知り合った友たちに会いにゆくのですが……。それでも私にとっては一つの旅行と言ってもいいほどです。

いつも旅行する時は、必ずと言ってJRを使います。さすがJRは行き届いたサービスで私たち障害者に接してくれます。そのお陰で、私は遠く離れた都会へ行くことができるんですが、やはり都会といっても不便なことがあります。例えば、タクシーを捕まえる時や横断歩道を渡る時などその他いろいろ。こんな時、私は周囲の人に頼むことにしています。たいていの人には快く私の声に耳を傾けてくれるのですが、人によっては無視し、そそくさと通り過ぎる人もいます。

これは私たち障害者にとってはものすごく悲しいことです。だが、これは仕方がない事でもあるのではないのでしょうか？ 何故なら、この人たちは今まで障害者と接したことがないからです。だから、障害者とどう接していいのかわからないと思うのです。

ここで話を変えますが、最近では“バリアフリー”と騒がれていますが、果たしてこれが障害者にとって一番良いことなのでしょうか？

たしかに住みやすい環境づくりや設備の整った施設づくりが障害者のために行われているけれど、これでは“バリアフリー” というものが障害者、又は一部の人だけの物になってしまう。

アメリカでは、健常者と障害者が何の違和感も持たずに働いたり、極普通に生活を共にしています。最近日本でもこのような光景が増えてきましたが、一部で『障害者はしてあ

げないと何一つできない』という考えをする人もいます。

どちらかと言えば、日本という国は障害者と健常者との価値感が大幅に違うと思われがちになっています。ですから一口に“バリアフリー”と言っても万全な注意を図って行わなければ、片方がバリアフリーに関心をもって、もう片方はバリアフリーに関して、無関心になると思うのです。人によってはこの、“無関心さ”を差別と勘違いする人が多く、すぐに悲観的になってしまうのです。

何もこの人たちは差別で障害者のことを無視したり、わざと話を聞かなかつたりしないのです。この人たちは私たち障害者のことを知らないでいるからです。知らないからどうしていいのかわからない。わからないから障害者のことは受け入れられないといった感じで、つい無関心になつてしまうのです。

さて、それにはどうしたら良いのでしょうか？ 第一に“バリアフリー”を障害者だけのものではなく、健常者側にも“バリアフリー”の意味を何らかの形で知ってもらうこと。

例えば、“バリアフリー”のあり方をもっと一般社会に広め、もっとグローバルな考えで行った方が誰にでも“バリアフリー”に関して、理解できるのではないのでしょうか？

単なる一般的な設備ではなく、障害者が何処にでも参加できるように『娯楽、歓楽街の整備』を強化。第二に、これからの障害者のことを考えて、教育の面での考え直し。今まで障害児はきまって“養護学校”や“特殊学級”で教育を学んで来ましたが、ですから思うような授業を受けずに、ついて来れない障害児は知的障害と判断されて、特殊な学校に入れられることが多いのです。最近では、時代が変わつてくるせいか、障害者も思うように授業を受けられるようになってきましたが、まだまだ教育の面で障害者が授業を受けられるように強化しなければなりません。

それには、幼児教育から大学教育まで障害者が交わって行けるような環境を作らなければならぬと思うのです。また専門学校や芸術、芸能（その他の分野）にも障害者を受け入れの見直し。やはり教育で、障害者の運命が決まるのではないのでしょうか？

先に書いたように、障害者に対して無関心なのは、やはり社会がまだ障害者のことを区別しているからではないのでしょうか？ そんな社会だからこそ、無関心の人たちがいるのです。もっと“バリアフリー”を障害者のためだけでなく、誰とでも交じわれるようなバリアフリーを作つて行つた方が、もっと障害者が住み良くなるのではないのでしょうか。

私はこの先も“旅行”というものを通して、自分をアピールしてゆきます。

障害者はどう考えているのか、相手にわかるまで私は”旅”を続けてゆきます。



－授賞式の風景－

それは、いつもの墨彩画サークルの何気ない始まりの、ときでした。

「先生、入賞しました!!」と…… 頬を紅潮させて入って来られた清水光雄さんー。

夏の頃、一生懸命に描いていた「七尾妙観院」の絵が、第19回の日本肢体不自由者の美術展で、栄えある優秀賞に輝いたのでした。そして、この知らせを聞いた一瞬、私も自分が賞をいただくより何倍もの興奮と喜びを、覚えました。「おめでとう！ 清水さん！」サークルのお仲間の皆さんの祝福を受けた清水さん。きつと最良の日であったことでしょう。

ミレニアムの年の12月6日から、東京芸術劇場ギャラリーにて展示された。この美術展は、障害を持った方々が、生きがいのある、充実した生活を送るため、自己表現の機会を拡大して社会参加と、周囲の人々の心のバリアを取り除き、共に生きる明るい社会を作る趣旨で、開催されたものです。

不自由を補う工夫をしながら、創作活動に励み、その努力の結晶というべき作品を、各都道府県肢体不自由協会と共に、全国から募集されるものであります。

思い起こせば、夏の暑い日に、せっせとスケッチをし、書き上げた6号の妙観院ー何度か見せていただき、アドバイスはいたしました。すべてご自分の手で、完成されたのでした。

利き手の右手が使えず、左手での御不自由を克服しながら、一筆一筆に気を入れながらの作品であったでしょう。

青山彩光苑の墨彩画サークルは、四肢麻痺のため口に筆をくわえて、実に上手に描かれる向さんを始め、ただ今8名で、四方山（よもやま）話などをしながら、和やかに楽しく、筆を走らせています。

私は展覧会の最終日に時間を作り、滑り込みで上京し、拝見してきました。今年は、わがサークルより出品者が増えそうです。



ー七尾妙観院表門ー

## 精神障害者の世界に触れて

## 地域住民・障害者支援施設職員

私は現在、精神障害者の入所授産施設の職員をしています。宅配弁当を作り、地域の事業所や老人の方、或いは一人で暮らしておられる精神障害者の方に、昼間届けるという仕事をしています。そういう仕事に携わり、精神障害者の方と触れ合う中で感じた事を、少し書いてみたいと思います。

精神障害者の方が他の障害を持った方と一番違うのは、彼らは常時薬を必要としているという事です。薬の服用を怠ると病気が再発し、入院という事態を招く事もあるので、薬の服用が一番デリケートな問題です。心の病気だけにとっても疲れやすいという一面もあります。

逆に一番違うのは、名乗らなければほとんど健常者と変わらない、という事でしょうか。それだけにまた問題もあって、家族の方のイライラ感、察して余りあるものがあります。また職場でも、出きるのにしようとしな、やる気がないなど、とかくマイナスイメージで見られがちです。

しかし、そういう病気個性を持った人と割り切って接することで、彼らの世界を理解する入り口に辿りつけるような気がします。がつつして世知辛い今の社会に在って、何が本当に大切なのかを気づかせてくれる人たちは貴重です。

平成14年度から精神障害者のホームヘルプ事業が法制化されたり、生活支援センターがゆくゆくは街中に整備され、方向としてそれぞれ障害を持った方々がひとつの場所に集えるような形になっていくようですが、いずれも地域が基盤になっています。私の勤める施設でやっている宅配弁当もいわば地域が相手、そういう面で今から少しでも地域の人と触れ合う機会をつくり、地ならしができればと思っています。

## 進行性筋ジストロフィー症児(者)の介護2

## 地域住民・主婦（障害者の家族）

2001年元旦 神島雅樹から神島雅樹宛の封書が届きました。EXPO'85のポストカプセルです。

21せいきあけましておめでとうございます。

エアカーが発明されましたか。

24才（注 本人の計算違いで正しくは26才です）のおれ「22せいきはけいこくする」というばんぐみありますか。空気はまずいですか。

うちゅうステーションができています。

10才の長男が戻ってきたようで懐かしくその当時の様子が思い出されました。本人は4年前に亡くなっているので言いようのない悲しみもあるのですが、宝物が一つ増えて「雅樹、ありがとう。」って思いました。

自分のこと「おれ」と言っていたんですね。この頃すでに病気のことは話してあったので、20歳まで生きられるか不安はあったと思いますが、それでも医学の進歩を信じ未来に夢を託したんですね！ アキレス腱や膝が伸びにくくなってきて、左右の足の長さもバランスが悪く大分歩きづらくなっていました。歩く速度もおそく転びやすくなって、長距離を歩くのは苦手でもたまた疲れやすかったんです。二人とも幼少の頃から理系の事に興味を持ち、筑波の科学万博



－筑波科学万博・テーマ館で－

に行った時は大喜びでした。会場があまりにも広く見たいテーマ館も多かったので疲れてしまい、車いすのレンタルを利用しました。家庭でのリハビリは、体を自発的に動かすことを第一に考えました。そのために子供たちが興味を持つことにはできるだけ付き合いました。更に興味を持つ事柄を増やすために「子ども劇場」に入会して演劇や音楽のステージを觀賞したり、親の付き添い無しで高校生や青年たちと原始的なキャンプも数回体験しました。谷川の水で炊飯しテントで寝る三泊四日のキャンプでした。各地の博物館にも旅をしました。家の中では、廊下でキャッチボールをしたり、友たちと鬼ごっこをして一階、二階間を自分たちのルールで階段の途中で雅樹と宏行は捕まえてはいけないこととして楽しんでいました。もう一点気をつけたことは、精神的に落ち込まないようにしたこと。この病気で怖いのは症状が進行していく事実です。昨日までできたことが今日はできない、今までできたのにいつの間にかやりにくくなっている、足が重い、腕が拳がらない、指が動かすにくい、力が入らない、その積み重ねが育ち盛りの子どもたちの日常なのです。絶望感は計り知れないほどだと思えます。それを乗り越えて前向きに生きるためには、味わった絶望感より大きな感動と希望が必要なのです。手助けがあればできることも人に頼む勇気がなかったり、話すことが苦手ですべてを諦めて、無気力になる人（児）が多いそうです。弟のほうは一時期その傾向があり、兄の頑張りに引っ張られどうにか自分の好きなことを見つけ熱中する事で危機をのりきりました。二人とも周りの大人が感心するほど頑張りやでした。学校生活も学年が上になるにつれ実技が多くなり、工夫が必要になりました。障害児が地域の学校に通う事は、学習の評価も同等に扱われるので他の子より更に努力が求められます。笛は俯いて膝で支え、彫刻刀は手で支え顎で押して彫りました。プールの時間も高学年まで皆と一緒にプールに入っていたようで（本人の意思にまかせていたので）、座らないと着替えられないので更衣室が使えず水着のまま手すりにへばりつくようにして階段を三階まで上がり教室



－キリンビール工場・キリンバレッジ見学－

で着替えていたそうです。階段を上がるのに三十分かかったので次の時間は半分しか授業をうけられませんでした。それでも学校が楽しかったのか一度も休むとはいいませんでした。それで中学入学時に車いすを使うことになり「これで楽になった。」と思ったそうです。学校の中は平気なのに道路に車いすで出るのは大変勇気が要ったようでした。

身体的介護は、自分でできることは時間がかかっても進行を少しでも遅くするためにやらせたので、却って精神的に大変でした。ゆっくり待つために忍耐がいました。

1. 朝、体を起こす。
2. 着替えを自分でできるように身近に衣服を用意。
3. 抱き起こして立たせトイレに連れて行き後ろから支えて小水をさせる。
4. 洗面所で椅子に座らせ洗顔させる。
5. 階段を座った状態で自分で降り、食卓で朝食。
6. ランドセルを担がせ手を引き学校へ、二人別々に階段を介助して教室へ、荷物を机の上に載せてやり、これで朝の介助は終わりです。

下校時は教室まで迎えに行き6の手順の逆で帰宅します。主に移動介助で、床から抱き起こしたりソファーや車いすから他の場所への移動、おぶったり抱き上げての介助で成長するにつれて体重が増えたり、体幹の筋力も落ちてきて体を自分で支えられなくなるので結構体力が必要でした。通学の介助も歩行から自転車、車へと変わっていきました。住宅も必要に応じてリフトを付けたり、風呂場・自室・居室・トイレも次々にバリアフリー工事をしました。

中学入学時に車いすを購入するまで障害者手帳の交付申請もしていなかったのも、福祉情報もほとんど無く手探り状態で、毎日の実践の中で介助法も学びました。市役所や福祉関係者とお付き合いが増えるにつれ、いろんな福祉道具や制度を利用する事でもっと楽に介護ができると思いました。

また、それまで気がつかなかったのですが身近にある新聞・テレビ・情報誌などに豊富に福祉情報が載っているのです。福祉機器やバリアフリー住宅の工事も年々進歩をしていて、今は随分楽になりました。車も中学から専門学校の頃迄十年あまりの間の送迎は軽自動車ですべて座席に乗り換えての方法でしたので、室内用車いす～外出用車いす～座席～外出用車いすと移し替えを何度



－2000年電動車いす中部ブロック大会－

も繰り返さないとはいえませんでした。今も軽自動車ですがフロントドアがスロープになり電動車いすでもそのまま乗り込めるので、いつでもどこへでも行きたいと思ったときに一緒に出かけられます。6年前に子どもたちが電動車いすサッカーのチームを結成したこともあり、練習や各種福祉行事への参加、食事やショッピングと大忙しです。介護は日常生活上の介助もますます増えますし、就寝時の寝返り介助・痰を出させてやる介助など夜中に起こされることも多くなると思います。でも、工夫しながら一日でも永く一緒に暮らせるようにお互い健康に気をつけ、明るく楽しく命を輝かせて活きたいと思います。(完)

## 私のホームページ

このコーナーは福祉関係の情報を発信している方々のホームページを紹介します。あなたのホームページの紹介を600～800字程度にまとめて、お送り下さい。

### らくらくマウスのホームページ

<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/rakuraku/>

ONE・STEP企画(東京都)



パソコンのキーボード操作の負担を大きく軽減してくれるマウスは、大変便利な道具です。しかし、手の不自由な人にとって、マウスの移動、ダブルクリック(ボタンの2度押し)、ドラッグ(ボタンを押しながら)の操作は難しく、決して使いやすいものとは言えません。かえって負担になっていると言えるでしょう。

このような方のために、『らくらくマウス』を作りました。

マウスカーソルの移動方法には、8つのボタンを使って操作する物とジョイスティックを使って操作する物の2種類あり、両方とも、縦、横、斜めの8方向に動かすことができます。対応機種は、PS/2(DOS/V)用とUSB用があります。

また、購入前の試用サービス(有料)やボタン配置を変更する等の特注サービス(有料)、オリジナルを作りたい方のために基板のみの販売も行っています。

販売はONE・STEP企画、製造はネットワーク杉並ことテクニカルサポートが担当し、両者とも任意グループで利潤を得ない方針で、この事業に取り組んでいます。

## 注文方法や販売価格など詳しくは？

### [らくらくマウスのホームページ](http://www.tocolo.or.jp/syokunou/rakuraku/)

<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/rakuraku/>をご覧ください。

### [ONE・STEP企画ホームページ](http://www.tocolo.or.jp/syokunou/onestep/)

<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/onestep/>

### [ONE・STEP企画](mailto:one.step@tocolo.or.jp)

[one.step@tocolo.or.jp](mailto:one.step@tocolo.or.jp)

## 編集者より

「HSK季刊わたぼうし」の編集者も一般のマウスが使えないため、2年前にらくらくマウスを購入して使っています。

## ・ 8点ボタン

カーソルの移動を、左右・上下・斜めの8つのボタンを使って操作するタイプです。



## ・ ジョイスティック

カーソルの移動を、棒状を使って操作するタイプです。



## 措置から選択の時代へ、変わりゆく障害者福祉サービス

～平成15年4月より～

### 1. 障害者保健福祉施策の改正の概要

- ① 障害者福祉サービスの利用の仕組みを現行の「措置制度」から契約により利用する新しい利用制度「支援費支給制度」へ改正する。
- ② 利用者の保護の仕組みを制度化する。
- ③ 障害者の相談支援事業などを新たに法律上の事業として位置付ける。
- ④ 一定の社会福祉事業(障害者の通所授産施設を予定)について規模要件の引き下げを行うといった内容の改正を行ったところであります。

### 2. 措置制度から利用制度へ

#### ・ 概要

現在、障害者福祉サービスの利用の仕組みは、一部のサービスを除き、行政(市町村、都道府県)が、個々の障害者の必要性等に応じて、利用するサービス内容やサービス事業者を決めるといういわゆる「措置制度」がとられているところでありますが、障害者

のノーマライゼーションの理念や、自己決定、自己実現を図っていくという時代の流れを踏まえると、障害者と事業者・施設が対等の関係に立ってサービスを利用する新しい仕組みづくりが求められております。

平成15年度から、身体障害者及び知的障害者の在宅・施設サービス並びに障害児の在宅サービスについて、従来の「措置制度」を、利用者自らが利用するサービス内容や事業者・施設を選択し、利用者が事業者・施設と対等な立場に立って、契約によりサービスを利用する新しい利用の仕組み(「支援費支給制度」)とすることとしております。

### 3. 利用の手順

- ① 利用者は都道府県知事の指定を受けた指定事業者・施設に対してサービスの利用を申し込むとともに、市町村に対して費用(支援費)支給の申請を行う。
- ② 市町村は、利用者の障害の種類・程度、介護者の状況などを勘案して費用の支給を行うことが適切であると認めるときは、支給決定を行う。(なお、決定は、利用するサービスの内容ごとに行われる)
- ③ 利用者は、市町村の決定した支給額の範囲内でサービスを利用する。
- ④ 利用者は、市町村から、利用料の全体額から本人及び扶養義務者の負担能力に応じて定めた利用者負担額を控除した額の支給を受ける。

このように、本来は、サービス利用時に利用者がいったん費用の全額を支払って、その後、市町村から費用の支給を受けることとなりますが、利用者の経済的負担の軽減等の観点から、支給される費用はサービス事業者や施設が代理受領することを原則としており、この場合、利用者は、サービス利用時に、事業者や施設に対して利用者負担額を支払えば良いこととなります。

なお、新しい利用制度に移行した以後も、家族の虐待などやむを得ない理由により契約によるサービス利用が困難な場合があるので、こうした場合には、措置制度による利用も可能な仕組みとしております。

※この制度は、とても大切なことですので、今後は新しい情報を随時載せていく予定です。

## マイ・ブックスルーム

### 僕にできないこと。僕にしかできないこと

春山 満著 発行所:幻冬舎 定価:本体1,400円+税

1954年兵庫県生まれ。24歳で進行性筋ジストロフィーを発病、不治を宣告される。以後、転がり落ちるように体の機能を失い、現在、首から下の四肢を全廃。

本書は、絶望のどん底から立ち上がった一人の経営者の実話です。しかし、彼は決して奇跡の成功者ではありません。日々できるだけの努力を積み重ね、家族の愛に支えられた我々と同じ一人の人間です。健康とは、幸福とは、人生とは、いったい何でしょうか？すべての日本人にとって切実なテーマになった「介護」や「老い」についても、沢山のヒントをくれる一冊です。

(幻冬舎：ホームページより)

## 編集後記

年始めの大雪は本当に驚きました。大雪が一段落すると、「えひめ丸」と潜水艦の衝突事故が発生した時の森首相の対応が話題になっています。私、個人としては首相にもっと頑張ってもらいたいと思っていたのに、今回のことは非常に残念に思っています。

さて、「HSK季刊わたぼうし」がホームページに公開されています。機関紙にはない情報も載せています。一度、お寄り下さい。(Z.0)

## 川柳裏表紙

政治家をけなす川柳なら詠める

石川県代表の森首相が今、野党から退陣を求められている。ホノルルでの実習船と米原子力潜水艦衝突事故発生の時、ゴルフ場においてその事故の対応が遅かった。それが”賭けゴルフ”だったとか、KSD問題、ゴルフ場会員権問題など新聞の政治面には川柳のネタがたくさんある。それらの川柳に政治家をほめる句はあまり見られないが、叱ったり、けなす句なら私にもたくさんある。「主権在民」と言っても、私達は政治に対して何の力もないのか？ 選挙期間だけちやほやされるのか……！！(比)